

地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・臨床研修指定病院（基幹型）



労働者健康福祉機構 **新潟労災病院**

〒942-8502 上越市東雲町1-7-12 電話：025(543)3123

FAX：025(544)5210

ホームページ：http://www.niigatah.rofuku.go.jp

成功・努力・志と四苦八苦

病院長 松原 要一

年度末の慌ただしさもやっと落ち着き、四月一日からの新年度を待つばかりになった。着任してあつという間の四年間で、今回は五度目（予定では最後）となる。毎年、退職者・異動職員を送り、すぐに新人を迎えるこの時期は若干の寂しさ・反省と新たな期待・やる気が混じり合って独特の雰囲気である。加えて、北寄りに位置する日本海側らしい長く厳しい冬から春に大きく気候・風景が変わるので、心が躍る時期でもある。海を背に三方を山々で囲まれ、ぬくもりを感じさせる芽吹き前の木々が広がる里山、緑豊かな平野と市街地、その中心を静かに流れる関川、やや霞のかかった淡い青い空と2000メートル級の妙高山や火打山の残雪のコントラストなどが実に美しい。一方、退職や異動で環境が変わって体調を崩すことが多い時期でもある。新生活では二・三か月間は就寝・起床の時間と睡眠時間および食事方法（時間・内容）などの生活習慣を大きく変えないで、徐々に新生活に慣れるようにすることが肝要であろう。

さて、最近読んだ「人生の大則」（藤尾 秀昭、致知出版、2014）に興味深い記述があったので一部を紹介する。著者は人間学を学ぶ月刊誌『致知』の編集長で、創刊35周年を迎えて記念出版されたもの。同誌は四年前の2010年4月に当院着任時に取材を受けて以来愛読しており、当院の「ろうさいニュース」第99号（2010.10.1）の巻頭言「縁を生かす」で紹介した。

その著者曰く“目まぐるしい変化の時代である。永久に変わらないものなどはない、と思いがちである。だが、絶対不変の真理は厳然としてある。その第一「人は必ず死ぬ」・中略、第二「自分の人生は自分しか生きられない」・中略、第三「人生は一回限りである」・中略、第四「この悠久の宇宙において自分という存在はたった一人しかいない」・中略。このかけがいのない命をどう生きるか。そこに人生の道標（みちしるべ）が要る。古来、幾多の聖賢がその道標を私たちに示してくれている。・中略。”さらに本文の中で“第9章 切に生きる”の記述に弟子と師の道元との



非常に示唆に富んだやり取りがある。“ 「人間は皆仏性を持って生まれていると教えられたが、仏性を持っているはずの人間になぜ成功する人とならない人がいるのですか」 『教えてもよいが、一度自分でよく考えなさい』・中略、「昨晚考えましたが、やはり分かりません。教えてください」 『それなら教えてやろう。成功する人は努力する。成功しない人は努力しない。その差だ』・中略、「昨日は分かったつもりになって帰りましたが、仏性を有する人間に、どうして努力する人、しない人がいるのでしょうか」 『努力する人間には志（こころざし）がある。しない人間には志がない。その差だ』・中略、さらに翌日「仏性のある人間にどうして志がある人とならない人が生じるのか」 『志のある人は、人間は必ず死ぬことを知っている。志のない人は、人間が必ず死ぬということを本当の意味で知らない。その差だ』道元の逸話である。この逸話を彷彿とさせる道元の言葉が『正法眼蔵随聞記（しょうぼうげんぞうずいもんき）』にある。・以下略 ”（註：道元は鎌倉時代初期の禅僧、1200－1253。日本における曹洞宗の開祖で高祖、仏性伝東国師、承陽大師、一般には道元禅師と呼ばれる。）

また、「四苦八苦」という言葉も知られている。これは仏教における『苦（く）』の分類で、苦とは「苦しみのことではなく、思うようにならないこと」を意味し、根本的な苦を『生・老・病・死』の四苦とし、それに「愛するものと別離する」「怨み憎んでいる者に会う」「求める物が得られない」「人間の肉体と精神が思うがままにならない」の四苦を合わせて八苦と呼ぶとするのもの。四苦を主な対象とする医療では、成功を成果・結果と置き換えて、病気の予防、悪化の防止、治療成績の向上でこの「志と努力」を考えれば、その受ける側と行う側ともに理解しやすいと思われる。

要は『生き方を真剣に考えるかどうか』になる。新年度を迎え、新しいスタートに『志と努力』を意識するのも良いのでは。

(H26. 3.31.病院 3 階の院長室の窓から春日和の風景を観ながら)



よろしくお祈いします！（新任医師自己紹介）

内科副部長 笹川 泰 司



この度 3 月から、腎臓内科として赴任いたしました笹川です。上越市出身で、平成 17 年に新潟大学を卒業し、現在 9 年目になります。ここ数年は上越市内の病院に勤務させて頂き、今回労災病院で働く機会を得られましたので、引き続き上越の医療に貢献できればと考えております。主に腎臓疾患、透析を担当させて頂く予定で、色々とお迷惑をお掛けする事もあるかと思いますが、ご指導のほど宜しくお祈い申し上げます。

よく顎が外れるー習慣性顎関節脱臼とその治療についてー

第3 歯科口腔外科部長 高山裕司



顎関節脱臼とは、口を大きく開けた後、特にあくびが多いと思います。口が閉じなくなることです。これは、顎の関節が、一定以上の運動をして、関節がもとにもどらなくなり、同時に関節内や周囲の軟組織を傷めてしまう疾患で、自力で回復することは困難ですから医療機関を受診する必要があります。患者自身はしゃべりにくくなり、第三者から見ると、面長にみえたり、嚥下できないため口から唾液がこぼれてきたり、耳の前が陥没しているのが症状として起こります。通常は、脱臼した顎を整復し、開口制限することで、一定期間再発しなければ、自然と回復し脱臼しなくなりますが、そうではなく頻回に外れる患者さんもいます。これを習慣性顎関節脱臼と言います。

習慣性になると、いくら開口制限をしても脱臼したり、逆に開口制限をしすぎるとその機器の刺激によって顎の下に褥瘡を形成して開口制限ができなくなります。習慣性になる方は、ご高齢の方が多いたのですが、その中でも多数の歯が欠損していて、義歯を入れていない方、脳血管疾患がある方、パーキンソン病などの神経疾患がある方が多くなっています。特に義歯をお持ちでない方は、顎（下顎）の位置が安定しないために非常に起こりやすくなります。

治療法としては、先ほど述べたように、まずは整復して、開口制限を一定期間行います。整復は通常、無麻酔でできますが、痛み等で困難な場合は、笑気を使用したり、麻酔で眠らせてから行います。それでも脱臼してしまう場合は、他の手立てを考えなければいけません。そこで、当科では、「自己血注入療法」を行っています。これは、患者さん自身の血液を顎の関節に注入し、関節内を硬くすることで、関節の可動域を制限する治療法です。外来通院でも可能な治療法で、自分の血液ですので感染する可能性は非常に低く、関節に局所麻酔してから行いますので、患者さん自身には苦痛はありませんし、合併症の少ない治療法です。

よく顎が外れる方がご家族にいらっしゃいましたらご相談ください。

☆☆☆ 医師交代のお知らせ ☆☆☆

転入(4/1)

第5 外科部長

整形外科副部長

呼吸器外科部長

泌尿器科医師

歯科臨床研修医

さかもと
坂本
はないし
花石
いわなみ
岩浪
やまぐち
山口
よこじ
横地
たけや
武也
げんたろう
源太郎
たかし
崇嗣
しゅんすけ
峻介
まい
麻衣

転出(3/31)

整形外科副部長

呼吸器外科部長

泌尿器科医師

放射線治療科部長

原 夏樹

中川 誠

黒木 大生

中野 敬太

プロフィールについては、次号でお知らせします。

新潟労災病院の理念

“働く人の健康を守り、地域の急性期医療に貢献します”



新潟労災病院の基本姿勢

1. 良質で安全な医療を行います。
2. 患者の権利を尊重し、患者中心の医療を行います。
3. 地域の急性期医療を担当する高機能病院として、救急医療を行います。
4. 働く人の健康を守ります。

患者さんの権利

新潟労災病院は、患者さんが次の権利を有することを確認し、これを尊重いたします。

1. 人間としての尊厳をもって医療を受ける権利
2. 当院の提供する良質で安全な医療を受ける権利
3. 自らの健康状況を理解するために必要な情報を、当院から得る権利
4. 当院の提供する医療の内容および予測される結果について説明を受ける権利
5. 他施設の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 当院から必要な説明を受けたうえで、自分の自由な意思に基づいて選択し、あるいは拒否する権利
7. 診療に関する記録の開示を求める権利
8. プライバシーが保たれる権利
9. 医療費の報告および医療費の公的援助に関する情報を受ける権利

患者さんの責務



1. 自らの健康に関する情報を正確に医療者に伝える責務
 - ・最適な検査や治療を受けるために、自身の健康に関する情報を詳しく正確に提供してください。
2. 診療等に関して自らの意思を明らかにする責務
 - ・医師から十分な説明を受けた上で、診断・治療方針について、自らの意思を明らかにしてください。
3. 診療等に関する指示や助言を守る責務
 - ・診療を円滑に受けるため、医療従事者の指示や助言を守ってください。
4. 病院の規則に従い職員や他者へ迷惑を掛けない責務
 - ・すべての患者さまが、安全で良質な医療を受けられるように配慮するとともに、当院職員が適切な医療を行うのを妨げないよう協力してください。

人間ドック／がん検診のご案内

New!

☞ これまでがん検診を受けたことのない方へ、

アミノインデックスによるがんリスク判定のおすすめ (次頁コース⑩参照)

1回の採血で、多数のがんの疑いを同時に判定します。(肺・胃・大腸・前立腺・乳・子宮・卵巣がん)

疑いがあれば、次にそのがんに応じて精密検査を受けていただくことになります。肉親にがん患者のいる方に、とくにおすすめします。

New!

☞ 肝胆膵など腹部の超音波検査を単独でお申し込みいただけます。

前立腺・子宮と大動脈とのセットです。(次頁コース⑤)

- ・ 便潜血検査は、大腸がん検診です。内視鏡なら、さらに確実です。(次頁コース④)

1日ドック(税込み) お食事券付

基本コース	がんと生活習慣病の一般コース、男女共通	43,740円
男性コース	基本 + 前立腺がん検査(PSA検査)	45,576円
女性コース	基本 + 乳がん検査(視触診+マンモグラフィ) 乳腺エコー検査(3,672円)を追加できます。	50,004円
	基本 + 子宮がん検査(内診+細胞診+子宮卵巣エコー)	48,060円
	基本 + 乳がん・子宮がん検査 乳腺エコー検査(3,672円)を追加できます。	54,324円

基本コース検査項目 (特定健康診査の項目をすべて含む。■は、がん検診です。)

身体計測	身長体重 体脂肪 骨格筋量 腹囲 BMI
眼と耳の機能	眼底 眼圧 視力 聴力
生理機能	胸部X線 呼吸機能+肺年齢 血圧 心電図 心拍数
血液 (肝腎機能・血糖・脂質・血球・炎症反応)	総蛋白 アルブミン AST(GOT) ALT(GPT) γ -GT(γ -GTP) ALP 総ビリルビン 尿酸 クレアチニン eGFR 血糖 HbA1c 総コレステロール 中性脂肪 HDL・LDLコレステロール 赤血球数 血色素量 ヘマトクリット値 MCV MCH MCHC 白血球数 白血球分画 血小板数 CRP 血液型(初回)
尿	尿蛋白 尿糖 尿潜血 ウロビリノーゲン PH 比重 沈渣
胃内視鏡と便潜血(2回)	
超音波	肝胆膵腎+前立腺・子宮+大動脈
問診 診察	情報提供と説明、指導

検診コースの①～⑩の検査は、ドックにオプション検査として追加することができます。もちろん、がん検診だけでも、いくつかを組み合わせでの実施も可能です。★はドックの各コースに含まれます。

がん検診コース

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
①甲状腺	ホルモン測定 甲状腺エコー	8,100	
②肺	低線量肺がんCT	9,720	
③胃	胃内視鏡 ★		16,200
④大腸	便潜血(2回) ★		1,620
	大腸内視鏡(69歳まで) ドックと別日で実施	21,600	
⑤肝胆膵臓+前立腺 ・子宮+大動脈	超音波 ★		5,724
⑥前立腺	PSA ★男性		1,836
⑦乳腺	視触診(ドック実施時のみ)	乳腺エコーあり	9,936
	マンモグラフィ撮影 ★女性	乳腺エコーなし	6,264
⑧子宮	内診 子宮頸部細胞診 ★女性 子宮卵巣エコー(子宮体がんの検査を含む)		4,320
⑨腫瘍マーカー	CEA CA19-9 AFP	3,240	
⑩アミノインデックス がんリスクスクリー ニング検査	男性(胃・肺・大腸・前立腺がん)	20,520	
	女性(胃・肺・大腸・乳・子宮がん)		
	女性(乳・子宮がん)	10,260	

生活習慣病予防コース

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
⑪頸動脈の動脈硬化	頸動脈エコー	5,940	
⑫肺年齢	呼吸機能 ★		3,240
⑬骨密度検査	X線	3,780	
⑭内臓脂肪測定検査	腹部CT	3,240	
⑮骨格筋肉量	体成分分析装置(インボディ) ★ (骨密度または内臓脂肪測定とセット実施)		540
⑯睡眠時無呼吸検査	自宅で睡眠時に測定(機器貸出し)	5,400	

その他

円(税込)

	内 容	ドック オプション料金	単独実施料金 (ドックなし)
⑰肝炎検査	HBs抗原 HCV抗体	2,322	
⑱HIV検査	HIV抗体	1,404	

1日ドック・がん検診コース・生活習慣病予防コースは予約制です。

下記①②の方法でご予約下さい。

- ① お電話(ドック健診担当)または医事課0番窓口にてお申し込み下さい。

電話 025-543-3123 内線(1233) 平日 8:30～16:00

- ② 1日ドック・健診各コース申込書(新潟労災病院ホームページ(<http://www.niigatah.rofuku.go.jp/>)よりダウンロード)に必要事項を記入し、新潟労災病院医事課へ郵送または FAX して下さい。

〒942-8502 新潟県上越市東雲町 1-7-12

新潟労災病院医事課ドック検診担当

FAX 025-543-7110



散 歩 道



今年は例年になく小雪でした。観測史上2番目に雪が少なかったようです。車で通勤する身にとっては除雪作業や凍結も少なく助かりました。2月中旬に甲府市や軽井沢町をはじめ、関東地方を中心に大雪となりました。この辺りでは、「今年は雪が多いね」が挨拶代わりにありますが、降雪のない地域では、交通マヒにより世帯の孤立、物流の滞り、買い物ができないなど様々な問題が浮き彫りになりました。便利な世の中ながら、裏を返せばその当たり前の日常生活に慣れすぎ、物流がストップすると、不便で何もできなくなるんだなあと思い知らされました。全国から除雪支援や自衛隊、ボランティアの方々が派遣されたと聞きました。当地からも派遣があり、派遣先の地域の方々に大変喜ばれたとのこと。上越市民としてとても誇りに思いました。こういう時こそ、地域や近所の方々の助け合いや思いやりの精神を大切にしなければと感じました。備蓄品や防災用品などの購入を検討する良い機会でもありましたね。

(K. M)